2020年、「私は相模原に住んでいる」と誇りに思えるまちへ

◆シビックプライド（市民の相模原市に対する愛着や誇り）

151自治体を対象に行われたシビックプライドランキングによれば、相模原市は「愛着」「誇り」で150位。（2018年読売広告社）「相模原市には多くの魅力や資源があるにも関わらず、市民に十分伝わっていない」というもとむら市長。まだまだ伸びしろがある状態です。

シビックプライドの醸成は、定住してもらうためにも、地域の活性化のためにも重要だといいます。そこで、今年3月には「さがみはらファンサイト」が開設され、シンポジウムが3月7日に開催される予定です。また、市民と基本理念を共有する条例制定のため、外部有識者や市民で構成する検討委員会を設置し、協議中。令和2年度中を目標に条例制定予定で、制定されれば全国でも2例目となる予定です。

◆SDGs（エス・ディー・ジーズ）

「誰も置き去りにしない」世界をつくるため、国連に加盟する全ての国々が合意してできた『持続可能な開発目標』、それがSDGsです。

昨年、相模原JC・津久井JCそれぞれと共同推進宣言を行い、普及啓発等が行われています。また、若葉まつりなどのイベントをはじめ日頃からSDGsバッチを身につけて普及啓発に取組む市長は、「市民一人ひとりに理解を深めていただくことが重要」そして、「日本一のSDGs都市・相模原の実現を目指す」とのこと。今年は専用ホームページの立ち上げなど、更なる周知啓発を進めていくとのことです。

たとえば買い物をするときに必要なものだけを買う、エコバックを持つ等できることから一緒にはじめませんか？

◆人権条例

性別、年齢、障がいの有無、民族や国籍等の違いに関わらず誰もがかけがえのない個人として尊重され、お互いの人権を認め合う共生社会の実現が重要です。やまゆり園事件があった相模原市では事件を風化させない取組みも重要です。普及啓発のほか、令和3年度を目途に条例制定へ向けた取組みも進められているそうです。

◆行政組織の改革へ

「複雑化、多様化する行政課題に的確に対応するために詳細を検討中」だそうですが、市の重要政策の企画調整等を行う市長公室を4月に設置する予定だそうです。

「相模原から日本を変える！」は、季刊です。直近の秋号では、台風第19号被害を特集しました。夏号では市長室の扉がクリアになったことや、所信表明演説をご紹介。号外として、小田急多摩線延伸特集号を発行し、配布しております。バックナンバーをご希望の方は下記事務局にご連絡ください。

相模原から日本を変える！会は、もとむら賢太郎市長を応援しています。

誌面ではすべて伝えられません！SNSで 市長の活動をチェック！

発行：相模原から日本を変える！会　相模原市南区西大沼2-52-13　TEL：042-851-6152　FAX：042-851-6162
編集人：青山明日香　発行人：水野典之

相模原から日本を変える！

季刊・2019年冬号

もとむら賢太郎さんと振り返る 2019年と2020年の展望

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が迫ってまいりました。相模原市内では、自転車ロードレースが開催されるほか、カナダやブラジルの選手団が事前キャンプを行うことになっています。

また、聖火リレーも市内を走り、ランナーには新磯小の教員で、日本がボイコットしたモスクワ五輪で女子体操の代表だった津田さんも選ばれています。市内で実施されるのは、6月30日（火）です。横山公園第１駐車場付近から相模原市役所にかけての約2.1kmと、橋本駅前から橋本公園までの約1.6kmの2コースのほか、橋本公園ではセレブレーション（各日最終聖火ランナーの到着時に、聖火到着を祝うイベント）が開催される予定です。

自転車ロードレースのコース予定地となっている国道413号線は、令和元年台風第19号により甚大な被害を受けておりますが、皆さんが力を合わせ、2019年末には通行止めが解除されました。（1月16日から3月下旬ごろまで集中工事のため、再度通行止めとなります）引き続き、地元の皆様の交通の便を確保するため、そしてオリンピックの成功のためにも復旧に取り組んでいくとのことです。

オリンピックは津久井地域の復興の象徴ともなります。自転車ロードレースは観戦するのにチケットが不要、しかも山岳路に入る市内の小倉橋あたりからレースが面白くなるといわれております。ぜひ皆様も迫力のある世界最高レベルのレースを体感してください。オリンピック後には、国際ロードレース大会を市内に誘致しているそうです！

つくる。幸せ色あふれる相模原。市民に開かれた市政へ。

写真とともに振り返る
2019年

市長選挙に出馬を表明、衆議院議員を辞職

2019年1月10日、もとむらさんが記者会見を行い、相模原市長選挙へ出馬を表明しました。「子どもや孫の世代が生まれてよかったと思える相模原にしたい」。その決意を語り、一般予算が衆議院を通過した3月2日に辞職届を大島議長に提出。3月7日の衆議院本会議にて、辞職が認められると、党派を超えた拍手に包まれながら議場を後にしました。

「市長選挙へ出馬するかどうか、本当に最後まで悩んだ」というもとむらさん。最後に背中を押してくれたのは、市民の皆さんから寄せられる期待と、次の10年、今のままの相模原ではダメだという強い思いだったそうです。

▲市長選出馬を表明した記者会見(2019.1.10)

▲衆議院議員として最後となった本会議登壇(2019.3.2)

◀議員辞職が認められ、議場を拍手のなか退出(2019.3.7)

相模原市長選に当選、もとむら市政がスタート

4月7日、相模原市長選挙の投開票が行われ、13万2,186票でもとむら賢太郎さんが当選。表紙のとおり多くの市民に見守られる中、4月22日から4年間の任期がスタートしました。

本誌夏号でもお伝えしましたが、選挙中からお約束してきた「市長室の扉をクリアにする」ことを5月に実現させ、市民に開かれた市政への第一歩をスタートさせました。

「これまで市長の顔が見えなかった。72万市民の皆さまとの対話を重視し、顔の見える市長になりたい」というもとむら市長は、7月から公約だった「まちかど市長室」を実施。また、これまで主に副市長が出席していた22地区のまちづくり懇談会にも市長自らが出席するようになりました。

▲スモークが取れ、クリアになった市長室の扉

▲まちかど市長室 in 子育て広場

▲市議会本会議

▲まちかど市長室

台風第19号による甚大な被害。全力で復旧復興へ

10月12日、台風第19号が全国各地で猛威をふるい、相模原市内も甚大な被害を受けました。お亡くなりになった方のご冥福を心からお祈りしますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

12月27日時点で、死者8名、負傷者3名。全壊22棟を含む177棟の住家被害、停電3,959軒や断水3,772戸等のライフラインの被害、499か所の道路被害、193か所の土砂崩れなどが発生し、被害総額は109億8,900万となります。

もとむら市長は災害対策本部長として陣頭指揮をとるとともに、現場に足を運び、または国や県に必要な支援を要請し、実現してまいりました。

また、ボランティアのご協力や義援金など多くの支援が寄せられているとのことです。

「被災した皆様に寄り添い、安全安心な生活を取り戻せるよう全力で取り組んでいく」ともとむら市長。今後の減災・防災の取組にも期待していきたいところです。

伊勢丹相模原店が閉店

9月末日、伊勢丹相模原店が29年の歴史に幕を閉じました。もとむら市長は就任直後から、何度も伊勢丹の社長や役員の方々と面会をしてきました。同社は野村不動産を優先交渉権者として売却交渉をしているとのことです。今後も自由通路の確保やまちのにぎわい創出のための文化・商業施設展開を後押しするとのことです。

▲閉店に際し、花束を渡すもとむら市長

行財政構造改革プラン(仮称)発表。市の現状が明らかに

市長が交代したからこそ、市の現状を白日のもとにさらすことができます。

「つじつまを合わせるのではなく、市民にも正直な数字や状況を伝えたい」ととというもとむら市長は、積極的な情報公開に取り組んでいます。

実際、これまで聞いていた話と現状が大きく違う場面も何度もあったとか。

市長交代によって明らかになったこととして、麻溝台・新磯野地区土地区画整理事業の件や、市の長期財政収支等があげられます。相模原市がこれまでと同様の行財政運営を続けた場合、令和9年度末までに約768億円の歳出超過が見込まれ、真に必要なサービスすら提供できなくなることが懸念されます。

そこで12月、「あらゆる工夫による歳入確保」と「これまで取り組んできた事業や今後取り組もうとしていた事業」をすべて一度ゼロベースにしたうえで「選択と集中」を徹底的に行う「(仮称)行財政構造改革プラン」を策定することが発表されました。(市民からの意見を市のホームページ等で募集中)

A&A、中間報告を発表

もとむら市長にとって2019年は「挑」んだ年。麻溝台・新磯野地区土地区画整理事業いわゆるＡ＆Ａはその一つとなった厳しい課題です。大量の地中障害物の発出等により、いったん立ち止まって事業検証を進めた結果、中間発表の段階で不適切な宅地評価など多くの問題点が明らかになりました。

弁護士による第三者委員会が設置され、さらなる検証が進められます。報告は3月下旬の予定とのことです。